

法親寺新聞

2014年
手書き新聞 No.12



こんにちは。釋 紗音です。やっと暖かい時侯になりました。
5月21日は、親鸞聖人のお誕生日ですね。『降誕会(ごうたんえ)』と呼ばれ、とても大切な日とされています。親鸞聖人の有名なお言葉に『弥陀の五去カ思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり』とあります。解説すると『阿弥陀様が五去カという人間には考えられない時間をかけて誓われた本願をよくよく考えてみると、親鸞一人の為に誓われた願であったのだ』という意味です。親鸞聖人は、阿弥陀様の五去カもの永い間の修行は、この愚かな親鸞の為にあったのだといただかれていたのです。阿弥陀様の願いは、自分の為の願いだとして一人一人があげたい、お念仏を大切に生きていくことが大切なのだと、教えてくださっているのではないのでしょうか。阿弥陀様は、信じて『南無阿弥陀仏』と私の名前を呼ぶものは、一人残らず必ず救い取って浄土に生まれさせてあげようと誓ってくださっています。仏になることが難しい罪深い私を、必ず救ってくださるのですから『南無阿弥陀仏』は、頼むお念仏ではなく、感謝のお念仏なのですね。浄土真宗は、亡くなってから成仏を願うのではなく、生きているうちから阿弥陀様のお浄土へ往生することが決定している教えです。命尽きたら、必ず仏に生まれることが出来、行く場所が決まっているからこそ、小悩み多き今を光輝いて生きることが出来るのです。

玉野市仏教会
花まつり

和歌山県
加太・友ヶ島
ラピュタ
そっくりな島



住職の法話
仏教では人間に生まれたということについて、二通りの説明があります。一つは生が苦悩の始まりであり人生は苦みの連続だということです。もう一つは人間に生まれるということは、有難いことだということです。なぜなら、真実の教えである仏様のみ法に出会うことが出来るからです。苦悩のままで一生を終わり、また再び苦悩の世界へと転生していくのか、仏様の救いにあり悟りの世界に仏として生まれ抜くのかは、死んでからではない、この世で決定するのです。だから苦悩の中に生きながら阿弥陀様の救いに会うことのできた人生は幸せいっぱい的人生になります。そして、私の苦しみが無くなることはありませんが私の苦しみ(しつかり)を受け止めて下さる阿弥陀様の存在は私が苦を苦と感しないほどのぬくもりとなるのです。み法に出会うということは私の存在が明らかになるということです。気づけなかった愚かさにも気づきます。全てのものに支えられている私であったと知らされます。自ずと感謝のお念仏が口から出るので、南無阿弥陀仏

おしえて住職
Q & A
のコーナー

Q... 浄土真宗では何故、般若心経をあげないのですか？

A... 般若心経も、浄土三部経も、お釈迦様が説きになったお経に違いありませんが、内容が大きく異なります。般若心経は、人間が生きている間に色々な知恵を身につけ、仏に近づいていく『自力』の教えです。浄土真宗は、生きている間は煩悩をなくすことも、仏になることも出来ず、命が終わると共に一人残らず阿弥陀様に救われ、浄土に往生し、仏にならせていただく『他力』の教えなので、般若心経の内容は当てはまらないのです。

お知らせ

お盆法座のご案内

- 日時●平成26年 7月19日(土)午後1時～
- 場所●法親寺本堂
- 講師●伊々木大観師(兵庫県宍粟市 西原寺住職)

